

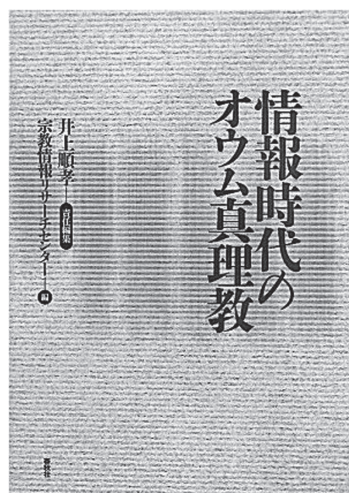
## 出版物紹介

### 宗教情報リサーチセンター編・井上順孝責任編集 『情報時代のオウム真理教』

(春秋社、2011年7月)

#### 内容紹介

1995年の地下鉄サリン事件のオウム真理教について、オウム真理教側の情報発信と社会の側からのオウム真理教についての情報発信を対比させながら考察した書。十年以上にわたって宗教情報リサーチセンターの研究員を中心に行ってきた資料・データの分析に基づく緻密な検証である。第一部ではオウム真理教の情報発信を映像メディア、ラジオ放送、説法テープ、音楽、書籍などについて内容を分析している。第二部では新聞、テレビ、ジャーナリストや研究者の報道や言説を分析している。事件以後との大きな違いが示される。第三部では政治活動、事業、陰謀論などのテーマの他、現在のアレフ・ひかりの輪にいたる経緯も示されている。今後のオウム真理教研究の基本文献になる。



### 井上順孝『図解雑学宗教 最新版』

(ナツメ社、2011年5月)

#### 内容紹介

2001年に刊行された『図解雑学宗教』を増補改訂したもの。巻頭に「国旗と宗教」、「宗教と人々の暮らし」、「宗教と建築・美術」のカラー図版が加わっている。また「アフリカと東南アジアのイスラーム」、「東学の系譜と儒教的新宗教」、「新しい葬法と変わる死生観」、「スピリチュアル・ブーム」、「現代の宗教紛争」、「観光資源化する宗教」が新しい項目として付け加えられた。入門書の案内も大きく改訂されている。全体が11章からなるが、この構成は前のものと同じである。



## 井上順孝『神道—日本人の原点を知る』

(マガジンハウス、2011年9月)

### 内容紹介

神道についてあまり知識のない人を対象に、神道の特徴や基本概念、歴史的展開などを分かりやすく解説したもの。図解、図表を交えながら、神道の基礎知識的な事柄をまとめてある。マガジンハウス社の「45分でわかる」シリーズの一冊。

構成：はじめに／神道の特徴／神道の基本概念／神社という不思議空間／神道の歴史／おわりに



## 星野靖二『近代日本の宗教概念——宗教者の言葉と近代』

(有志舎、2012年2月)

### 内容紹介

本書は近代日本における宗教概念の展開を宗教者の言葉を追うことで考察するものである。現代日本語における「宗教」が religion の翻訳語として明治期以降に成立したことは既に指摘されてきているが、本書はその成立の過程に焦点を合わせる。そして一方ではキリスト教徒達や仏教徒達が抽象概念としての宗教を論じる局面、他方ではそれを自らが奉じる宗教伝統の自己理解へと組み込んでいく局面について検討する。

第1部「文明としての宗教」では宗教と文明や学術との関係がどのように取り扱われていたのかについて、第2部「文明から宗教へ」では宗教の独自性が超越性との関わりの中に措定されるようになっていく過程について、第3部「宗教と道徳の再配置」では宗教と道徳や日本なるものとの関係がどのように再配置されていったのかについて論じている。

なお、本書の発行に際して平成23年度國學院大學出版助成を受けている。

